

2 本時の展開

	学習活動(○基本発問 ◎中心発問)	指導・援助
導入	<p>1 価値に関わり自分の行動や考えを振り返る。</p> <p>○夢についてアンケートの結果を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢がある人 ・夢を探し中 ・考えたことがない <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「夢」のもつ力について考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを実施し、現在どのくらいの生徒が夢をもっているのか、夢はどのような存在なのか、意見を共有する。 ・夢をかなえるために大切な思いについて投げかけ、本時の学習内容に向かえるようにする。
展開 前段	<p>2 教材「夢の力」を範読する。</p> <p>○二條選手の気持ちがわかるどころ、すごいところはどこか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがした時のつらい気持ちがわかる。 ・怪我をして車いす生活になってもあきらめないとこがすごい。 ・2回も夢を叶えているところがすごい。 ・プレッシャーを力に変えて、行動できるところがすごい。 <p>○現場事故により車いす生活になってしまった時、どんな思いが込み上げてきたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力してきたのに悔しい、悲しい。 ・夢が叶ったのに絶望したと思う。 ・期待をしてくれた人たちの気持ちに応えられず、申し訳ない。 ・好きなことができなくて絶望したと思う。 <p>◎何度も諦めることができたのに、どうしてこんなにも頑張ることができたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を応援してくれてる人に恩返しをしたい。 ・支えてくれる人を裏切ることはいできない。 ・テニスが好きだから諦めたくない。 ・諦めたら何も残らないから、自分を信じたい。 <p>補助発問に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二條選手にも諦めたくない意地がある。 ・今できることを精一杯やりたいという本人の強い気持ちがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を読む前に、二條選手の「気持ちがわかるな」(人間理解)、「すごいな」(価値理解)と思う所を見つけるように投げかけ、基本発問に生かす。 ・二條選手が経験した挫折やつらい思いについて、多様な考え方や感じ方を板書で整理し、仲間と比べる中で、自分の気持ちに気付かせる。 <p>【主発問に対する補助発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢の存在はそんなに頑張れるものなのかな。」 ・「応援って時に自分が苦しくなることないかな。」 <p>「車いすの存在を知ったからといって、それが夢に代わるのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助的に問いかけ、二條選手が困難を乗り越える原動力に気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【研究内容1】 ネームプレートを活用し、自分の考えに近いものに貼り、授業を通して自分の考えを確認したり、考えの変化に気付けるようにしたりする。</p> </div>
展開 後段	<p>3 夢や目標について、これまでの自分やこれからの自分について考える。</p> <p>私も失敗は経験したくないし、味わいたくないと思って生活していた。目標はあるけど、努力の仕方がわからなかったり、やりきれなかったりすることが私の課題である。しかし、頑張り続けていたら二條さんのように新しい自分が発見できると信じて、失敗を恐れずに頑張っていこうと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二條選手から学んだことをもとに、夢の力を考え、自分自身につなげさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 主人公の思いをもとに、自分の経験や今の自分について見つめ直し、夢の力について、考えることができる。</p> </div>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>今日は夢の力の教材について学習した。私は中学2年生の時にこれまでやってきた水泳の種目をけがで断念した経験がある。「全国大会に出場する」という中学生になった時からの目標があった中での出来事。悔しかったし、怪我への後悔もあったが、私は諦めるという考えはなく、すぐに「どうしたらいいのか」、今の自分にできる可能性について必死に考えて、種目変更を決めた時のことは、今でもはっきり覚えている。それくらい全国大会への思いが強かったと思うし、種目変更してからの努力は10年以上経った今でも誇れることである。そういう自信や達成感を味わえたのも夢・目標という存在が、諦めたくない自分の意志を高めてくれたものだと思う。</p>	